

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 青葉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

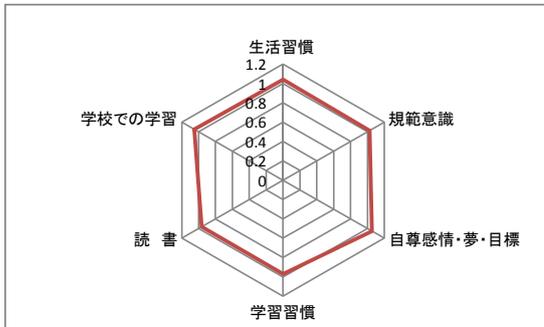
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に、全国平均正答率を上回っており、基本的な知識・技能の定着が図られている。特に、書く力を問う問題の正答率が前年度より大きく伸びている。日々の授業において、自分の考えを書くことを習慣化した成果が表れている。 ・ローマ字に苦手意識を持つ児童が多いことが分かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じて、図と表とを関係付けて読む問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	ローマ字を正しく読んだり、書いたりする問題の正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に、全国平均正答率を上回っている。自分の考えを記述する問題で正答率が全国平均正答率を大きく上回ることができた。 ・依然として、「話すこと・聞くこと」に関する問題や指定された文字数で課題を書く問題等に苦手意識があることも分かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、グラフや表を基に自分の考えを書く問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	質問の意図を捉えたり、分かったことを的確に書いたりする問題の正答率が低い。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を大きく上回っている。無解答がなく、基本的な問題の計算間違いも少ない。基礎基本の定着がしっかりと図れている。 ・割合や数直線図の表現等に課題が残る。今後は、数量の関係を図や表に表したり、図や表を基に考えを発表したりする学習に取り組みしていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	小数の除法や分数の情報の計算をする問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	割合を百分率に表す場面において、基準値と比較量の関係を捉える問題の正答率が低い。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に、全国平均正答率を上回っている。特に、数量や図形についての技能や知識・理解が高く、学習した内容を様々な場面に活用する力が付いてきていることが分かる。 ・式の数字が何を表しているかを論理的に記述する点に課題が残る。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された条件を基に他の正方形について検討し、同じまわりが成立するかを調べる問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	示された形をつくることのできることを表した式の意味の説明を記述する問題の正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均の割合と同程度であり、好ましい結果であるといえる。 ・学校での学習では、「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。」の項目で、前年度の割合を10ポイント近く上回っていた。日々の授業改善の成果が表れてきていることが伺われる。 ・規範意識や生活習慣では、依然として高い割合を維持することができた。家庭との連携の成果であるといえる。 ・「読書が好きだ。」という児童の割合が、若干減っている。今後も、意欲的に本の紹介や読書時間の確保し、日常的に読書に親しむ態度を育てていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施 ・正答率が低かった学力テストの問題を解き、具体的な指導方法を話し合う。(全職員)

- 補習授業の実施
 - ・週3回の「寺子屋タイム」を月、水、木曜日の給食準備時間や昼休み時間に実施する。
(校長、教頭、教務主任、担任外教員)
 - ・週2回の「放課後ひまわり学習塾」を火、金曜日の放課後に実施する。
(放課後ひまわり学習塾指導員)
 - ・その日の授業中のつまづき解消策として「放課後寺子屋タイム(15時～16時30分)」を毎日行う。
(教務主任、担任外教員、各担任)
- 基礎的・基本的な内容の定着を図る朝自習(8:40～8:50)
 - ・週2回実施の計算タイム(水・金)の内容を見直し、確実に実施する。(担任外教員・学年)
 - ・週2回実施の国語タイム(火・木)の内容を見直し、確実に実施する。(担任外教員・学年)
 - ・週1回の「いきいきタイム」(月)には、話す力・聞く力を高めることをねらいとした活動を行う。(学年)
 - ・過去問題、活用力を高めるワーク、ドリルプリントなどを効果的に活用していく。(学年)
 - ・国語科・算数科の基礎的・基本的な指導事項(内容)まとめたプリント集を作成し、周知徹底する。
(教務主任・学年)
- 音読暗唱ブック「ひまわり」の活用
 - ・校内「暗唱発表会」を年3回実施し、児童の意欲を高めると共に国語(古典)への興味をもたせる。
(全職員)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
 - ・全学年で、自主学習を推進する。「自学ノートコンクール」を企画し、実施する。(全校)
 - ・全学年に「家庭学習の約束(1年生～6年生)」を配布し、保護者の家庭学習に対する意識を高める。
(全校)
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック(ダイジェスト版)」を大いに活用する。(学年)
 - ・毎日、漢字・計算等の宿題を必ず出すことで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。(学年)
- 長期休業期間中の宿題量の学校統一
 - ・夏休みは、B4両面30枚(表:国語、裏:算数)、B4両面10枚(他教科)以上を基本とする。(全校)
 - ・冬、春休みは、B4両面10枚(表:国語、裏:算数)、B4両面3枚(他教科)以上を基本とする。(全校)
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り、学校HP、学年・学級通信等で、児童の学習状況等を発信する。
(校長・教頭・教務主任・各担任)